



「**他人事は自分事**」を考える

各施設の活動内容は、自分たちと何ら変わらない生活を送ることができるような手伝いをしていただけ、と皆さんは口をそろえて言う。例えば、グループホーム「サンライズ大君」は、基本的に日中活動がある障がい者の人が共同生活をしている場所。グループホームを管理する三木さんは「仕事がある日は仕事に

ながら、その10年間を、子どもたちの成長のために捧げてきたという事実は、とても誇らしく、かついいことだと、私は思った。

立ち上がり初期からスタッフとして働く沼田さんは「私たちも子どもたちと一緒に成長させてもらっているんですね。子どもたちの成長の過程の一部になれることが嬉しいし、反応や言葉、卒業した子どもたちの自立した姿を見るたびに、続けてきてよかったと思います」と話し、皆さんが笑顔でうなずいたのがとても印象的だった。続けて綾華さんは言う。「最初に見ていた子どもたちはもう成人しています。お酒も飲めるようになったから、飲みに行きましようなんて言ってくれるんです。そういう時、本当に時間が早く過ぎたなと感じるのと同時に、嬉しさがこみ上げてくるというか……。この前も、障がい者雇用枠で企業に勤める子が立て続けに遊びに来てくれて『今、自分はこういう状況なんだよ』って教えてくれて。給料で何買ってるん？って聞いたら、変なものを買ってるんだけど（笑）、自分たちとなんら変わらない生活を送れているということを知れて本当に嬉しかった。でも、10年前は立ち上げたばかりで、素人同然の部分もあったし、とにかく必死だった。今思えば、もつと子どもたちにできたこともあったと思うし、子どもたちには申し訳なさを感じることもあります。だからこそ、今いる子どもたちには、当時できなかったことをしてあげたいという気持ちが大きいですね」

自分には関係ないという人も多くいるだろう。しかし、太陽が運営する各施設は、ただの障がい者支援施設ではなく、障がいを受け入れ「個性」として人へ働きかけるきっかけの場所、人と何かをすることが楽しいと思えるような場所であるのではないかと思う。皆さんの仕事は、純粹で個性的な人たちと一緒に学び成長し、普段から人の心の温かさに触れる事ができる、そんな素敵な仕事だとも思った。インタビューを通して、私自身、障がいの向き合い方を改めて考えさせられたのは言うまでもない。

行ってもらおう。夜間の支援を僕たちがしているだけなんです。他は僕たちとなんら変わらない。仕事について、相談し合ったりすることもある。働いてお給料をもらって生活するという基本的な部分はみんな同じなんですよ」と話す。「障がいやハンディキャップを口にする」と「私は違う」と他人事になってしまう。でも、他人事じゃなくて自分事！私たちだって、いつ何が起きてどうなるかわからないからこそ、施設にいるから特別なのではないというのを、少しでも理解してもらえたらと思います。もちろん、外からだと思えない部分や不安な要素もあると思うので今後は、私たちの活動をよりオープンに、どんな人がいてどんなことをしているのかを、さまざまな方法で発信したいと思っています」と言う綾華さんの言葉に、私も思わず「他人事は自分事」について考えた。

おひさまには、元教職員のスタッフも在籍中。学習面のサポートも積極的にやっている。「距離ができてしまうので、おひさまではスタッフのことを先生とは呼ばせません。スタッフとの関係も対等に、気楽に過ごしてほしいので。これからの10年も、子どもや大人関係なく、皆さんがあらひのままの自分を受け入れて、楽しく生きていくサポートをしていきたいですね」と綾華さんは明るく笑った。

ETAJIMA GoON! エタジマゴーオン



一緒に成長していきたい、ただそれだけ。

Vol.22

大柿町
株式会社太陽

障がいを持ったり、発達に特性のある子どもが利用できる放課後デイサービス「おひさま」や、障がいを持つ人の生活を支援するグループホーム「サンライズ大君」などを運営する株式会社太陽。今回は、とても明るく話をしてくれる太陽で働く皆さんの、さまざまな思いについてのお話。

10年間で感じた変化と続けてきた理由

大柿町大原にある「おひさま2号館」。色とりどりの絵が描かれた施設は、雰囲気がとても明るい。「ここは、ハンディキャップがある子どもたちが通う放課後児童クラブのようなもので、成長段階で気になることがある子どもたちや、その中で不登校気味な子どもたちも通っています」とわかりやすく説明してくれるのは、宮下由佳代表と綾華さんだ。「おひさまが家庭や学校とは違った第三の居場所となつて、子どもたちが自分らしく成長できる場所となるように支援をしています。まずは気軽に相談できる場所として、月3回おひさまカフェも開いているので、ぜひご利用ください」

活動は、昨年10周年を迎えた。元々、広島市の障がい者支援施設に勤めていた由佳さんと息子の成美さんが、同様の施設が島にもあればいいなと思ったのが始まりだった。「当時はまだ、障がいという言葉に対して閉鎖的な空気は少なからずあったと思います。ですが、この10年で障がいを持つ子どもたちを取り巻く環境や、障がいそのものの見方がずいぶん良い方向に変わった気がしますね」話を聞きながら、由佳さんの言う「10年」に勝手ながら重みを感じた。言葉にすれば10年はあつという間かもしれないが、施設を運営するうえで、さまざまな問題に直面し、悩むこともあったのではない。活動を簡単に受け入れられたり、理解してくれる人たちももちろんいたとは思いますが、理解が難しい人もいただろう。それでも、由佳さんをはじめとする太陽で働くスタッフの皆さんは、人と障がいを向き合い、言ってみれば他人のために一生懸命動いてきたのだ。

10年と言えば、小学校に入学した子どもが高校生になる——その10年を皆さんは「あつという間だけど楽しかった」と言う。『変化の10年』と言われるように、この10年で社会の在り方も大きく変わった。話を聞き



おひさま 2 号館
広島県江田島市大柿町大原 1 0 9 5 - 2
TEL: 0823-27-7022 FAX: 0823-27-7023
(※おひさま 1 号館は柿浦にあります)

その他各施設についてはホームページをご確認ください



夏にオープン！グループホーム「サンライズ柿浦」入居者・スタッフ募集中

現在、㈱太陽では夏にオープン予定の日中支援型グループホーム「サンライズ柿浦」の入居者・スタッフを募集中！おひさまの活動を経て、日中の就労先や行き先が無い方でも入居できるグループホームの必要性を感じ、この度オープンすることになりました。この施設と一緒に働きませんか？詳しくはスタッフまでお問い合わせください！お問い合わせ先 ☎090-6431-7662



写真は「サンライズ大君」

スタッフみんなで持っています！